

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### 【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### 【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### 【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定していません。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 伊東
(ユニット名)	B
所在地 (県・市町村名)	静岡県伊東市富戸字水口1105-25
記入者名 (管理者)	中田 幸子
記入日	平成 21 年 1 月 20 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念として社会交流を掲げており同じ年代の人がしているように、気軽に外出したり、いろいろな方と交流したりして、その人らしい生活が楽しめるという事を目指している。</p>	<p>○</p> <p>昨年1月より町内会にも参加し活動をはじめ、隣のペンションでの喫茶や散歩等の外出もしているがもう少し機会を多くしたい。又、地域の方も運営推進会議や施設行事に参加していただいているのもっと輪を広げて生きたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>基本理念をホーム内に掲示しており、管理者は理解、実践しており、職員も実践に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>ここ1年、着実に職員も理念の理解を实践しているの でこれからも自信を持って実践していきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族会や町内会の常会、又、運営推進会議等の席で理解をいただけるように取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣のペンションでお茶会をしたり、散歩をしたりしている。最近では町内会に入ったのか、職員の知り合いの方が気軽に野菜を届けてくださる事も多い。</p>	<p>○</p> <p>現在行っている交流をもっと増やして生きたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に加入し町内会主催の夏祭り、又年2回ある草刈等に利用者様と参加し、運営推進会議には町内会長様に出席いただけるようになっている。</p>	<p>○</p> <p>とても広い地域なのでたくさんの方との交流は時間がかか ると思うがご近所の方との交流を軸に少しずつ広げていき たい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	包括支援センター主催のふれあい会等には参加し一緒に話を聞いたとしてコミュニケーションを取っている位なのでこれからの課題となる。	○	認知症サポーターなどに登録したり、ボランティアをしている職員もいるのでグループホーム事業所や職員として徘徊ネットワーク事業等で役立つように取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価を基に改善すべきところは評価を生かして改善し、生活するように努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を順調に開催できるようになり、開催した時に話し合ったり、意見をいただいたことを職員にしっかり説明しサービスの向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席していただいたり、反対に市主催の会議に出席させていただいたり、市との連携はととも円滑に出来るようになった。市からの連絡等で介護保険外のことも含めサービスの質の向上が出来ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修等で学ぶ機会があったが職員はまだまだ学ぶ機会も少なく理解できていない。	○	職員の研修参加を出来るだけ実現し、又、全体会議等で自己研修をしていき、必要性のあるときに活用できるようにしたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法は虐待に関しての法令と言う事は知っているが総てを理解しているわけではない。しかし日々職員同士注意を払っている。	○	これからは研修の機会を設けたい。又虐待とは身体だけではなく、言葉も大いにあるということを全職員心に留め努力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書、その他の書類を用いて説明したり、見学时質問を受けたりし安心して契約や解約が行えるようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応に対して意見箱を設置したり対応者の名前等を書いたりしたものを掲示し苦情を心配せず表せるようにし、又、意見等はご家族が来訪時や利用者様に尋ねたり知らせていただいている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1度後家族への手紙の中で近況報告や依頼等を行っている。また、健康状態が変化したときは、ナースより個別に症状の報告をし、薬の効能等も知らせて、了承をいただくようにしている。	○ 利用者様ご自信の簡単な手紙や年賀状等もご家族に送付してご家族に、大変喜んでいただいている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会など意見を聞く機会を設け、又玄関に意見箱を設置し担当職員名も明記して気軽に意見を話せるような設定を心がけている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を月一度開催しその場で意見を聞いたり、個別の話を聞いたりしている。ここ一年職員の意見も反映できてきたがまだまだの事も多い。	○ 金銭面で職員の介護に対する思いを全部実行してやる事ができずにいるのもっと努力する。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様のご家族の要望に合わせる等残業等をしたり、休日を変更したりして調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ一年管理者、職員とも落ち着いて職場で活動が出来るようになり利用者やご家族も安心されている。	○ 定年を迎えた職員も嘱託で勤務を希望したりして離職が驚く程少なくなったので持続させていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年数回の研修にも参加し始め、職員の仕事の活動内容も向上している。	○ 全体会議での自己研修等も加え、職員がここのレベルアップを目指していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護事業者部会、小規模事業者部会等に、積極的に参加しネットワークの確立がしっかり出来てきて、サービスの向上に役立っている。	○ 今は管理者が主に交流をしている、今後は市内のグループホームの職員同士の交流ができ、同じ介護の仕事をもっている方たちとの勉強会等が出来るように働きかけていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス軽減は大切な取り組みなので、常時話を聞いたり、様子観察をしながらアドバイスをしたりして安定した職場作りを目指している。	○ 福利厚生が整っていないので、少しずつ改善していくようにしたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	希望休をしっかりと実行してあげられるように勤務体制を作ったり、各自がやる気を起こして前向きに働き続けてくれるように配慮している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が訴えたい事をしっかりと把握し、不安な気持ちを受け止めて、何でも話が出来るように努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が、様々の理由で利用される事の思いを受け止め、しっかりと話を受容し、安心して利用していただくようにと心がけている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの話やケアマネージャーからの資料等を基に、今何を必要としているかを見極めそれに沿った支援をしていき、不安や心配を取り除く努力をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては見学をしていただき、他の入居者と一緒に食事をしていただいたり、あるがままに生活を見ていただき、自然な雰囲気の中で雑談したりして、徐々に溶け込んでいただけるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居のアセスメントに基づき利用者様の特性を把握して、御本人の言葉に傾聴し共感しながら共に考え一緒に行動するように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の中には、日頃から来訪され、数時間利用者や職員とコミュニケーションを取って情報の共有をされている方もいて、職員も利用者のご家族に要望等を連絡しながら皆で支えていくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的なご家族への手紙や、ご家族の来訪時近況等を報告し、家族会やホームの行事には参加をいただけるように努めている	○	やはり、何度説明しても利用者様の気持ちに添えないご家族もいるので根気良く話していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との思い出話の中で心の残る場所や人物があれば把握し、その方が来訪したりされたときは、場の設定に勤める。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけに留意し、個人の孤立に注意を払っている。又、行動を起こすときは、皆で一緒に支えあいながら、していくように配慮する事を忘れない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関わりを必要とする利用者やご家族には、電話で相談に乗ったり、訪問をしていただいたりして付き合いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の本人、ご家族との面談や資料から個々の出来る事、希望等を知り、日々の生活に自分で決めたり、希望する事を大切にしてそれらを促す取り組みをしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来るだけの資料を収集し、又、本人やご家族からの話を聞き、しっかり生活暦等の経過を把握して、サービスを始めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりが自分のペースを保ちながら生活して下さるように現状の把握を怠らないようにし、状態が変わった時の対処が直ぐ出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を用い全職員やご家族が、その人に係わりながら本人の今をより良いものにするためのカンファレンスをし計画を作成している。	○	センター方式に代えて、細かい部分の課題が職員にも見えてきているので、継続していきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとの期間応じた見直しをしているが、体調等そのときに変化が生じたときは、状態を見極めながら討議し、新たに計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、プランの実施表、個人記録等を記入しその計画の見直しの際はカンファレンスを行い情報を共有しながら対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、ご家族の都合に応じて歯科受診の付き添い対応等、機能を生かして活用しているも、急な場合を除いては、やはり職員の人数により対応が遅れる事もある。	○	迅速に支援が出来るようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察や消防、町内の方々、民生委員、ボランティア等いろいろな場面において協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援のケアマネや他に施設のケアマネと常に連絡しあい、会議にも説極的に参加し情報を活用して支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、常に連絡を取り、市の主催の徘徊ネットワークにも共働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療をお願いし、看護師職員が協力して付き添い支援をしている。状態の変化があったときは、すぐ連絡が取れるようになっている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医が近隣にいないこともあり、今は主治医に依頼している。	○	やはり認知症の専門医でないと個別の診断が出来ない事が多いため、きちんとした認知症の病名がない方が殆どなので専門医に受診をしたりできるように病院を探したい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎月、ドクターに同行したり、単独で来訪し支援している。薬の変更や症状の状態をご家族に連絡し安心していただけるような支援も行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	総合、歯科等の協力医療機関を確保し医師や看護師と退院後の介護について相談する等早期退院に向けて連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に本人、ご家族との話し合いで確認し、文書にて重度化に関する契約も結んである。職員ももちろん共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	契約書を結んであるも、事業所として出来る事できないことは、はっきりさせ主治医と共に支援今後の変化に備えて準備や検討を常に怠らないようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えが可能かどうか判断をするときには皆で何度も話し合い、情報交換を行って、少しでも住み替えによるダメージを防げるように努めている。	○	ご家族の希望や諸事情での住み替えがあるが、出来るだけ現在の生活と同じ様に送れるよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重した言葉かけに留意し、記録等も相手があったときはイニシャルにするなど注意を払っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意志は尊重しているが、危険な場合は制止してしまう事がある。	○ 認知症が進んでもできる限りの自己決定を支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースで過ごされていて、入浴や排泄、食事時間等も声かけはするも、利用者が決めている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族が本人の望む店等を知らない事が多いため、了承していただきホームカットをしている。本人はとても喜んでくださる。又、ご家族がカットに来てくださる方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒になって、準備や後片付けを行うよう取り組んでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が楽しめるようにしているも、健康上の面から医師と相談して調整しているものもある。(糖尿病、心臓疾患のある利用者)	○ 糖尿病の方は医師と相談し量の調整をしたり代替を使用して支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	最大限の見守りや声かけ誘導を行い、少しでも失敗が少なく、気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	意志を確認したうえで決定している。又入浴チェック表にて間が空かないように配慮し、拒否が多い利用者には声かけのタイミング等の工夫を試みている。	○	拒否の方が日を空けない様にこれからもいろいろな配慮をしていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況を見極め、声かけや見守り等で不安をなくし安心して休んだり、入眠したりするようにし支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔の歌、ゲーム、塗り絵等を楽しんだりしながら、一人ひとりの役割や得意な事、楽しみごとの支援をしている。気晴らしに庭でおやつにしたり畑の野菜を取ったりもしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知レベルで対応判断をしている。外出時にはお金の使用も見守りながらすることもある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の環境等に多少の問題もあり、又利用者の歩行能力もあるのでお花見、買い物等車での外出が殆どになっている。	○	庭は自由に出られるため、毎日出ている。外は坂道が殆どなので、散歩には一人の利用者に職員が一人付かなくてはならないが、少しずつ時間を取って支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の行事への参加、地域包括主催のサロン、花見や紅葉狩りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添うようにしているが日常的には電話は利用されず、手紙も返信を書ける方が少ない	○	職員が定期的にお便りを出して1ヶ月の様子や行事の報告をしているが手紙の下に季節の挿絵を書いてあり、本人に色塗りをしていただいている。又年賀状等は少しでも字が書ける方は書いていただいでいてご家族に感激していただいた。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族は気軽に来訪され、その折、職員は笑顔で対応を心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないし、してはならないと信じている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は弊害を理解しているが居室やベランダ等は鍵をかけていないが、玄関のみ施錠をしてある。	○	何回か、開錠を試みたが、職員の見守りが不可能の時があり、利用者が戸外へ出てしまった事もあるため施錠に至っている。これからは時間を決めて開錠していく事から始めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の様子を把握し、怪我等が無いように心がけ見守り、サポートしている。	○	夜間は、巡回以外に物音等に注意を払い特に歩行が不安定な利用者の安全確保に心がけている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の管理はきちんとされていて、常に在庫の確認や利用者の危険を防げるような配慮を心がけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対応のマニュアルを備えて職員はそれに添って行うようにしている。又、転倒や誤薬等があったときは事故報告書の提出を義務付け、再発の防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	申し送りや会議での話し合いはあるが、訓練は火災以外にしていない。	○	救命講習を受けている職員もいるので、全体会議の研修に取り入れたりして定期的に行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は防火管理者を選任し、その職員の指示の基、消防署と協力し行っている。	○	地域の防災訓練に参加し協力を得られるようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体調の変化でリスクが生じることについては、早めにご家族に説明し、看護師等からも説明してもらって対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや、入浴時の体の状態の変化、食事、排泄等の変化を見逃さず、速やかに対応している。そのため、申し送りの重要性を職員はしっかり把握している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳を活用や、看護師、薬剤師の情報提供を受けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックを用いながら、様子観察して、対応している。食事に重点を置き、又水分摂取量もチェックして予防し、慢性の方には、ナースの指示を受けて対処している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、昼、夕食後の口腔ケアは基より就寝前は義歯洗浄をして支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの毎日の食事量、水分摂取量等を健康記録に記入し、又個々の食事の量の調整等をして栄養バランスを取っている。又本部の栄養管理士にカロリー計算等も協力してもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種はご家族の了解の下、行っている。他の感染症も、手洗いの励行を主に、うがいやアルコール消毒、入浴、布団干し等を実行して対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	利用者にも手伝っていただくので、その際の手洗いの徹底や使用した後の洗浄や管理等をしっかりと行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は余裕を持って出入りができるように広くし、入り口の前はプランターに花を植えて安心して尋ねる事ができるように配慮してある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を植えたり、廊下は利用者たちが活動した写真を掲示したり、フロアーには職員と利用者の共同制作したカレンダーを飾り、生活感を持っていただけるように工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にあるソファ、ベランダや庭にあるベンチなどこにいても居場所の確保が出来るように対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族や本人が今まで使用していたものや、ご家族の仏壇等落ち着いて過ごせるように工夫し、又、季節によってご家族が模様替えをしたりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には充分配慮し、室内温度や、乾燥等も加湿器の使用や夜間には濡れたバスタオルを手すりにかけて、保湿に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の不安定の利用者には手すりを使用していただいたり、トイレもウォッシュレット等で生活の大まかな援助で安全に自立した生活を支援していくようにしている。。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者がもっている力を発揮できるように傾聴を心がけ、環境整備をして混乱や失敗の防止を図っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	デッキにスロープを設置し、自由に庭に出て畑を手伝ったり散歩をしたりしていただけるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
	<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input checked="" type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input checked="" type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input checked="" type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ユニットとして、どこまで利用者様の力を引き出して落ちついた生活をしていただくか、その為にはケアプランを皆で考え実行して行く事、今まで計画をしっかり立てずに行っていた行事等を見直し、職員に責任を持たせ職員の力も発揮できる様に事業所として取り組み、目に見えて成果が出てきました。職員も自信が付き、いろいろなことに自発的に取り組んでくれるようになったので、これからも持続できるようにしたい。又、自然を利用したこの施設の利点を(畑等)もっと活用して行く事に力をいれたい。